にこにこだより

令和5年(2023年)9月15日(金)

最近の活動から

覚えた手話を使って、自分の遊びたいおもちゃを借りようとしている幼３のお兄さん。お気に入りはシルバニアファミリーのおもちゃです。しかしタイミングが悪かったため「ごめんね、今はだめなんです。」と先生に言われてしまいました。でも、どうしても諦めきれず、今度は「お願いします！」の手話を使って必死に訴えていました。せっかくがんばってくれたので、希望をかなえてあげたい気持ちもあるのですが、今回はどうしてもそれができませんでした。それでも、その後はしっかり我慢ができて、次の活動に移ることができました。成長しましたね。

「いやだー、まだ遊びたいよー！」と言ってしがみついている場面ではなく、おもちゃ箱が重たいので野田先生と一緒に「うんとこしょ、どっこいしょ！」と引っ張っている場面です。引っ張っても引っ張っても吉川先生が押さえているので、箱はなかなか動きません。応援を呼ばないとね。誰を呼ぼうか？

わくわくタイムで童話「大きなかぶ」のパネルシアターやエプロンシアターを見たので、何か重たいものがあると、みんなで「うんとこしょ、どっこいしょ！」と引っ張るのですが、実はこれ、かしわ祭に向けた練習の一環なのです。幼稚部では今年のかしわ祭で「大きなかぶ」をテーマにした劇を発表することにしました。先週取り組んだ綱引きもその練習です。子どもたちはみんなと一緒に引っ張るのがおもしろいようなので、ケガに注意しながら楽しく練習に取り組んでいこうと思います。

養護教諭の森谷先生は毎日健康観察で子どもたちの様子を見に来てくれます。「おはよう！元気ですか？」と日常のあいさつを交わすだけでなく、子どもたちが自分のトピックを伝える良い機会になっています。上の写真は自分の家族の名前を伝えようとしている場面ですが、さすがろう学校の養護教諭、指文字を使って口形を見せ、発音指導までしてくれました。隣の写真は同じ内容を乳幼担当の野田先生に伝えている場面です。みんなトイレに行く途中でひよこ教室を覗き、野田先生とあいさつをしたりお話をしたりすることが大好きです。

子どもたちは教室外の先生やお友達と話すことで、様々なコミュニケーション場面を経験することができます。同じトピックを何度も繰り返して話していると、だんだん説明が上手になっていくのもわかります。子どもの経験に大人がことばを添えて聞かせ、使わせてみることで、少しずつことばが定着していくのですね。

黄色い眼鏡かな？羊の角のようにも見えますね。幼稚部の各教室にはレゴを始めとする様々なブロックがあります。組み立て方のコツをつかむと、ブロックの創造的な世界が無限に広がっていきます。何色を使おうと、どんな形にしようと自由です。正解はありません。ところが、ブロックの説明書に怪獣、遊園地、消防車やトラックなどの設計図が入っているので、子どもたちはそれを作ってほしいと教員に頼んでくることがあります。頼まれた教員は「そーかそーか」と張り切るのですが、作っている間に子どもたちは飽きて別の場所に行ってしまうので、気が付くと先生が一人で一生懸命作っているのです。これでは誰の遊びだかわかりません。

しかし、子どもたちがブロックのおもしろさに気づき、オリジナル作品を作り始めると、時間になっても壊さずにしまっておきたがります。自分で工夫して作った作品に愛着がわいてくるのですね。「ここが窓で、屋根で、・・・ここからこんにちは！」とストーリーを加えながら作品を作っている子もいます。子どもたちはアイディアに富み、創造的で素晴らしい作品を作り出します。大人は既存のイメージを正しく作ることはできますが、子どもたちのアイディアや創造性にはかなわないのです。